100808 富士吉田創造性育成塾中学2年生選抜講座

超伝導ものがたり

北澤 宏一

(独) 科学技術振興機構

地球は巨大な磁石



磁力線ブランケットが宇宙線(放射能)の侵入を防御しかし、問題が発生する可能性

地球の温暖化問題

137億年前:わたしたちの宇宙誕生 銀河 銀河系

46億年前:地球誕生

40億年前:生命誕生

30億年後:膨張する太陽

45万年前から5回の氷期と間氷期

20万年前:ヒトの誕生

1万2000年前:最後の氷期の終了

- ←水の存在
- ←空気(窒素と酸素) 炭酸ガス
- ←太陽光

奇跡の星

奇跡の私

正義は1つ?

ひとや生き物はちがう

- 机や建物となにが違う
- 細胞や分子が入れ替わってしまうのに どうして自分でいられるのか?
- DNAがつながっていく不思議

でも変化する でも努力できる

地球は科学技術が悪くしたと思いますか?

- わからない
- 思わない
- 思う

理科を、科学を学ぶと

- ・ひとの存在がいかに不思議か
- 地球がいかにかけがえがないか
- ・どうしたら地球環境を救えるのか
- ・健康を守り病気と闘える
- 科学はいかにひとを自由にしてきたのか?

自然の脅威からひとを解放してきた

それが分かる!

今日やること

- · 人間だけが起こすことのできた自然現象 不思議な超伝導
- ・超伝導で地球環境を救うことができる

超伝導の超能力(他に真似のできない3つの能力)

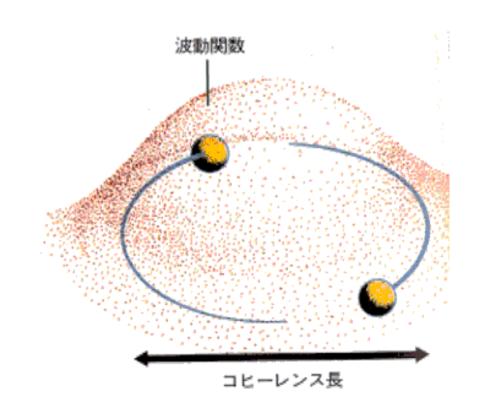
☆電気抵抗が完全にゼロ・永久電流が流れる 超遠距離送電、電源の要らない強力磁石 まさつの無い不思議な世界

☆マイスナー効果(磁力線を排除) ピン止め効果(磁力線を捕捉) 安定磁気浮上、無摩擦回転 磁石との不思議な世界

☆ジョセフソン効果 超高速・超低消費電力トランジスタ 超高感度磁気・光センサー

超伝導はなぜ起きる?

電子がクーパー対を形成 いったん動き始めると止まらない



超伝導はなぜ起きる?

物理系大学生用

量子力学でしか説明できない現象:

「粒子は波である」・「波は粒子である」
「粒子にはフェルミ粒子とボーズ粒子がある」
「電子はフェルミ粒子(スピン半整数)である」
「1つの状態には2つの電子(スピン逆平行)
しか入れない

クーパー対の形成(永久電流が発生)

超伝導状態では特殊な関係にある2つの電子がペア形成 (特殊な関係=運動量が反対称) ペア形成→スピンが整数になる→クーパー対はボーズ粒子 「ボース粒子は1つの状態にいくつでも入れる」 多体現象→低温ではボーズ凝縮が起きる→超伝導

超伝導:理系大学3年生のほとんどの人にはまだ理解不可

大学では「量子力学」が学べる

原子や電子の振る舞い:古典力学ではまったく説明不可

古典力学の仮説:常識と合う

量子力学の仮説:常識をかなぐり捨てる必要 自然感変わる

超伝導: 量子力学 $+\alpha$ ($\alpha =$ 多体効果) \rightarrow 難しい!

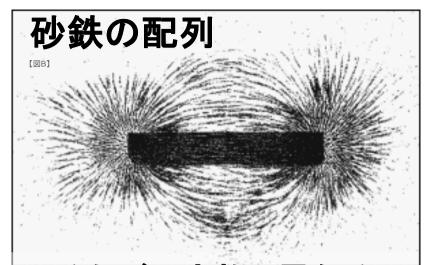
メカニズム:高温超伝導は現在もcontroversial!

超伝導の超能力(他に真似のできない3つの能力)

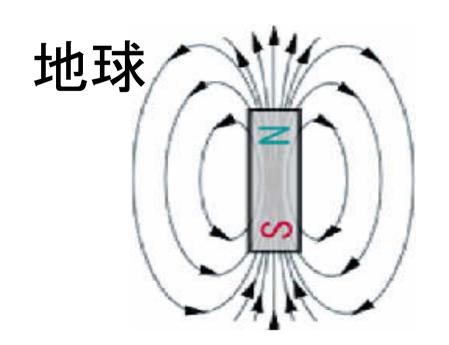
☆電気抵抗が完全にゼロ・永久電流が流れる 超遠距離送電、電源の要らない強力磁石 まさつの無い不思議な世界

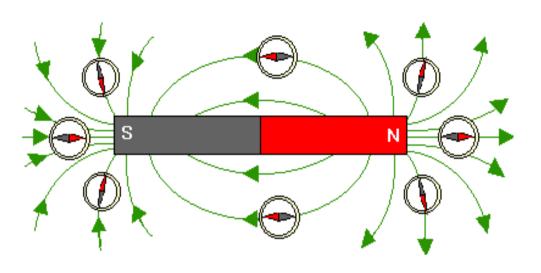
☆マイスナー効果(磁力線を排除) ピン止め効果(磁力線を捕捉) 安定磁気浮上、無摩擦回転 磁石との不思議な世界

☆ジョセフソン効果 超高速・超低消費電力トランジスタ 超高感度磁気・光センサー



やるたびに本数は異なる各位置の粉の方向は同じ





磁力線の方向=コンパス磁石の方向

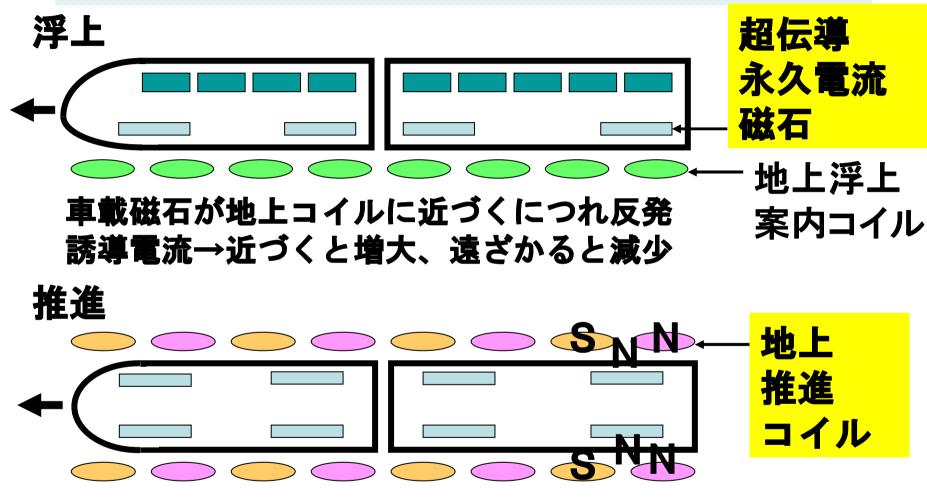
単位面積当たりの磁力線の本数は磁場の強さ(磁石を 廻そうとするモーメント)に比例

(本数は何本でも描けるが 一つの図ではどこかを決め ると決まる)



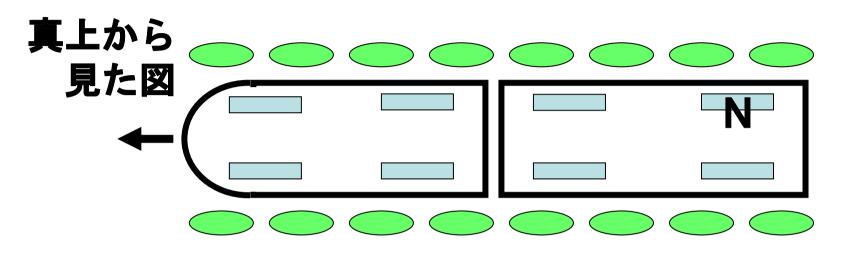
山梨リニアモーターカー実験線 Magnetically Levitated (超伝導磁気浮上)

リニアモーターカーの浮上と走行の原理



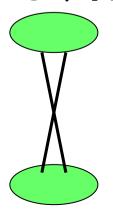
車載磁石を前に引くように次々とコイルの極性 を外部から切り替えてやる

リニア-モーターカー軌道から外れない理由

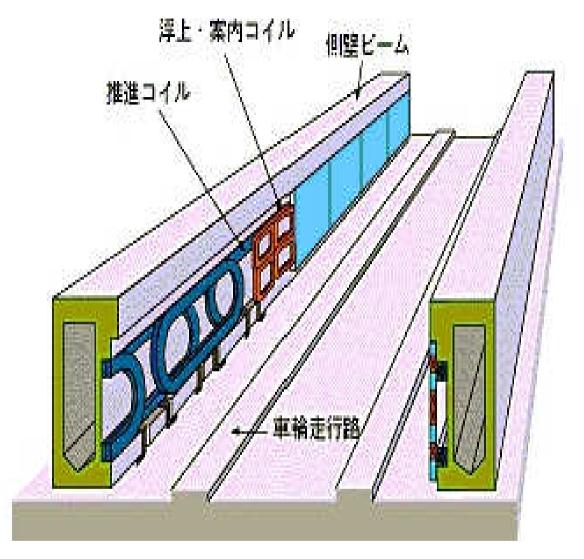


車載磁石近づいた側のコイルが反発 遠ざかった側のコイルが吸引

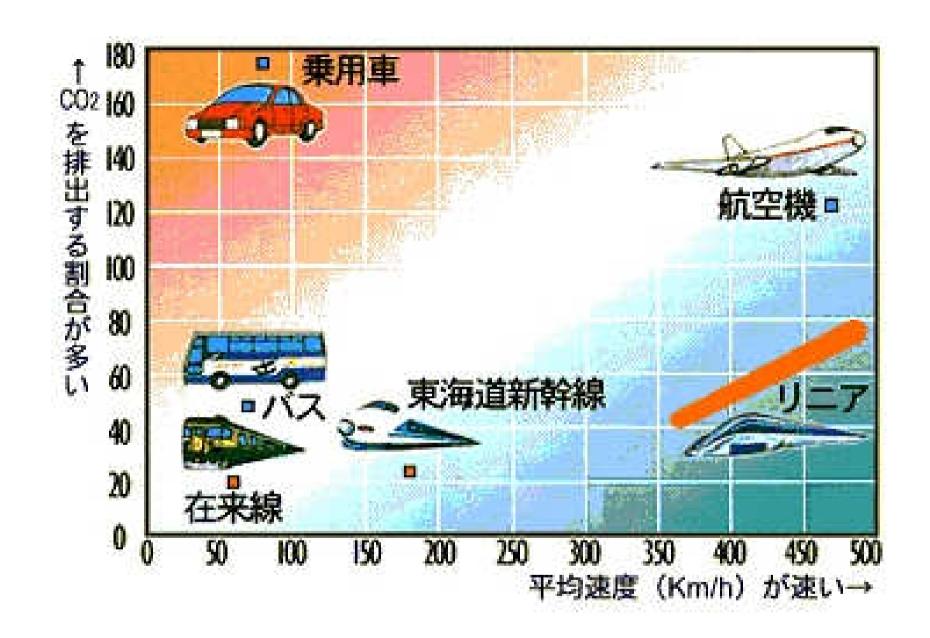
案内:軌道の中央を走る(外部電流による調節不要)



両側のコイルは逆に つないである



山梨リニア(マグレブ)の地上コイル(推進用と浮上・案内用の2種類)



空気抵抗:速度とともに増大→営業速度500km/h 減圧下なら2000km/hも可 (大陸間弾道物資輸送構想も)

リニアモーターカーの長所

☆時速2000kmも可能

地上リニア:500km/h (減圧下2000km/h)

ジェット機:1000km/h

☆廃ガスを出さない

☆自動車より静か

☆省エネルギー:国内航空機の1/3

☆安全性が鉄道よりさらに高い:

体積支持力(1点接触でない)





Global warming: 太陽光と地表温度

太陽エネルギー 有効利用率 :1万分の1

E~αT⁴
//バランス

赤外線を宇宙に

向けて輻射

宇宙: 2.7K

→地球冷却

CO2濃度增大

 $\rightarrow \alpha$ 減少

可視光に透明

赤外線は反射←CO₂分子の振動

到達可視光 E 地球を暖める

-6000K

~300K 地表温度T

地球内部からの熱: 太陽光エネの 6000分の1のみ

自然エネルギー



資源開発飽和 数%止まりか



膨大·未開発 10¹⁸W存在 1 k W/m² 必要量10¹³W 既開発原発1基分



(原発8基分)

824万 k W

地熱



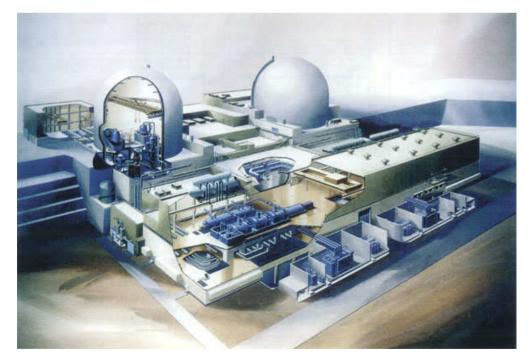
2003年末まで 3900万kW (原発数基分)

必要エネルギー:原発換算

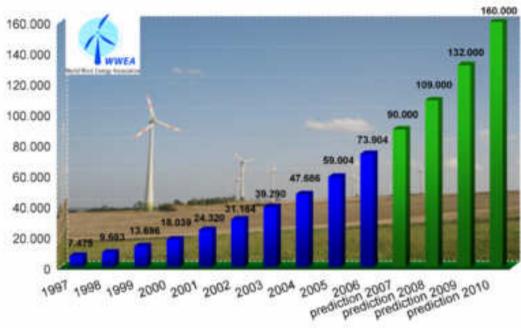
日本100基 世界6000基

原子力発電

- ・ 現在電力の3割は原子力 実績
- 低炭素 低コスト
- しかし不安とするひとも
- 一定発電得意



World Wind Energy - Total Installed Capacity (MW) and Prediction 1997-2010



風力発電 実用期に入った 大型発電所 100万kW級 1 0機分に到達 日本だけで100機分 世界で6000機欲しい

世界の風力発電の導入量と予測

太陽電池 値段高いが人気 大型発電所 100万kW級 1機分に到達

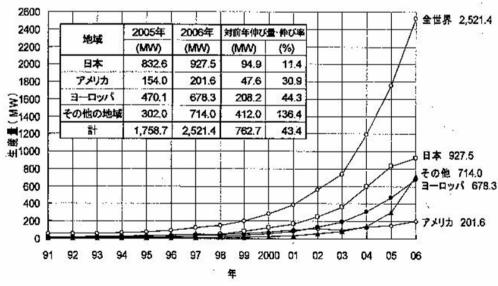


図1 世界における地域別太陽電池生産量

出典: PV News 2007年3月号、4月号を基に、㈱資源総合システムが一部修正して作成

電力の長所と問題点



長所

クリーン・安全・便利→電力化率日本45% (電力化率:

総エネルギーのうち電力に変換される比率)

電力の問題点

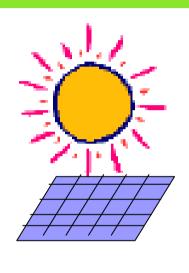
貯蔵が苦手(揚水発電:効率7割 ダムサイト 蓄電池貯蔵:効率5割 コスト高

遠くに運べない(現在500kmくらいまで)

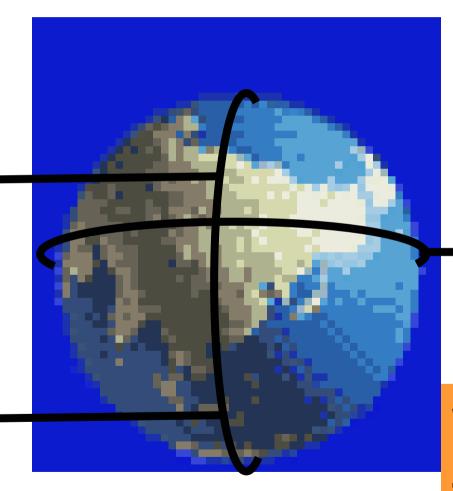
←電線の抵抗、交流送電(位相のずれ)

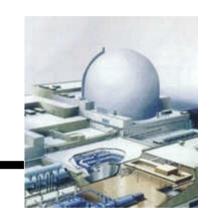
(水素で貯蔵運搬すると:再発電までに5割ロス)

超伝導グローバル電力ネットワーク時代 "私の夢"









すると何が 期待できる?

超伝導地球電力ネットワーク

自然エネルギーの欠点

太陽電池:太陽が照るときだけ

風力発電:風が吹くときだけ

必要な電力: 昼夜夏冬で違う

しかし、需要は発電の都合に無関係

超伝導なら地球の裏まで損失なしに電力送れる!! →地球規模で発電と需要を平均化→電力貯蔵の必要なくなる!

克服できれば:効率向上、コストダウン

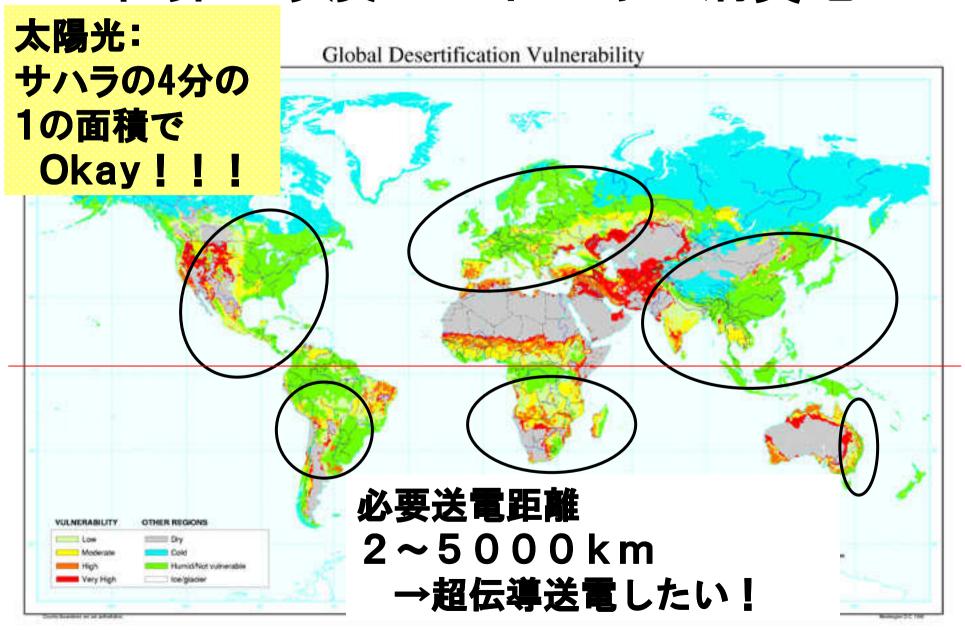
- 1. 有利な場所で発電
- 2. 時間変動する自然エネを平均化(3倍のコスト有利性) 世界のどこかで照っている

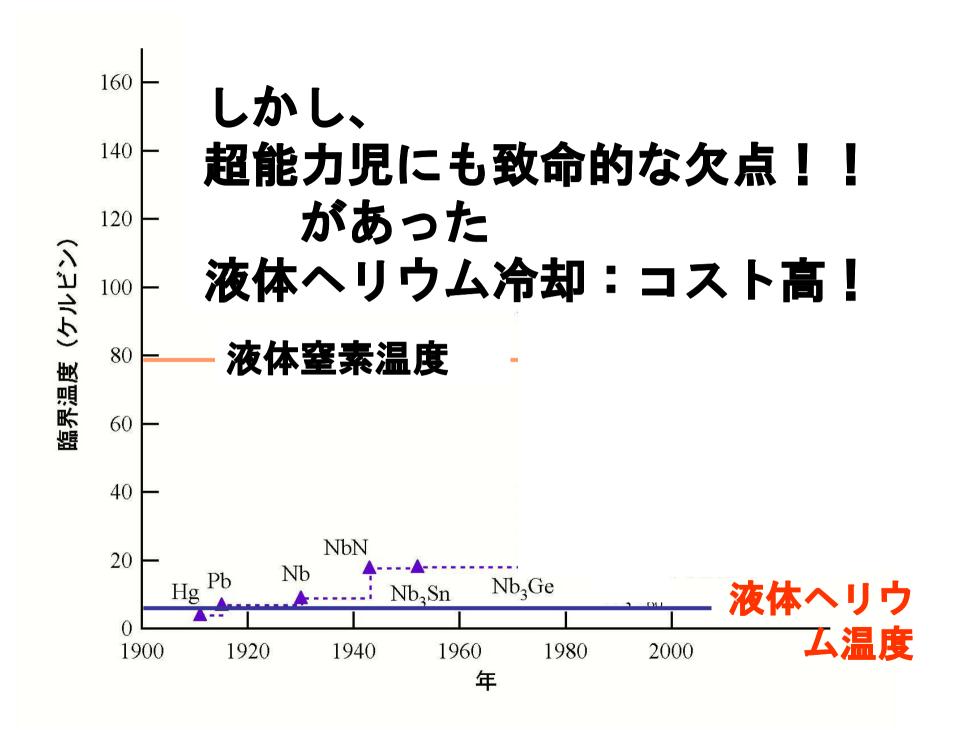
風が吹く

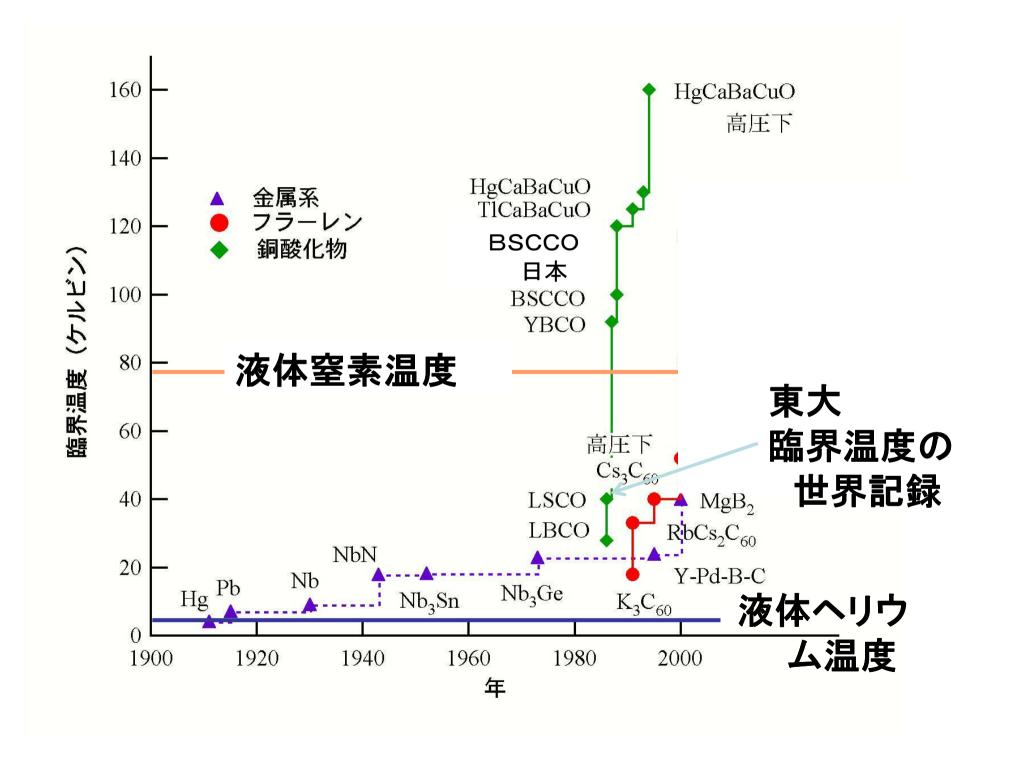
昼夜 東と西を平均化

夏冬 南と北半球を平均化

世界の砂漠とエネルギー消費地







間朝日1987.3.2.

いありません」 異常して何をいっているのか、

聞きとれない状態だった。マイス ナー効果とは、過伝導状態を示す も思わず磁がガクガタとふるえた 証拠である。 T受話器を手にしている私のほう

のを覚えています」 **姓でなく、ダラダラしていた。そ** 「何辞士の漢文は、略界益度が明 と北洋教授は当時を振り返る。

価されなかったのです」 でいなかった。1BMの中でも評 ている物質が何か、まで切り込ん なかった。だから、超长導を与え れば、彼らは銀伝導の専門家じゃ 人北洋牧技は説明する。 早

十四時間疲労が敷かれた。明日に 指状態に包まれることになる。 て出し抜かれるかもしれない。 も、世界のどこかの研究者によっ したことのない、異常なまでの異 接換を持ち込み、連目節夜の二 田中研究室は、これまでに体験

語話、電気ロスがゼコになる物器 に抜き出てしまったのだ。 では、北澤数没らが世界の最先端 だ。そして、 に発見した一番があるだけなの ところで、指伝導物質とは電気 起伝導の開発レー

リン・オンネス博士が、 のとうできる。 一九〇八年に、オランダのカメ

とによって、絶対温度四匹氏(絶 を物味器に添やし、数は含せたこ ときが器伝導研究の始まりであ 対客難は摂民マイナス二七三度) が世界中で行われるようにな 以来、超長導動質の。宝器 での親伝導を発見した。との

ず、悲観的な時代が繋いていた。 のニャブ、 三年間、研究はさっぱり進歴せ 発見されたのを最後に、その後十 超伝導物質がギャバラーによって だが、一九七三年に、一三氏氏 3ゲルマニウムという

孝則(科学技術アナリスト)

委員合からおってちてしまう。 当時、田中教授は、 e、東京大学工学部工资化学科

等の研究を進めていた。 東海大教授)ちとともに高温が伝 物性研究所の中語点典数数(真・ 費で超伝教界の大劉所である東大 殿材料研究所の武蔵芳羅教授、 块北大学金 冼

はならない。そうでないと研究の い研究成果を浴に出し続けなけれ れる会議に出版する。 の文献をあたり、 二万作出されたそうです。それら で、超伝導に関する文献がおよそ き残れません。この三年間に世界いないと、このフォールドでは生 「いつも最先輩のことをつかんで 世界中から呼ば しかも、

90.3.2 週刊朝日

学者たちの特囲は弱肉残食の戦場となった。 伝導フィーバー、に沸き始めた。

文・前閣

て、高温超伝導物質が深認されたのである。世界中が『超 た。それも学生の卒論実験から生まれたのだ。世界で初め

いきなり頂点に立った科

一九八六年十一月十三日、一つの大きな発見がなされ

の北洋変一教授自己はある。

て来い

担任導を利用したリニアモーター カー「スーパーひかり」の模型

数後、この研究室から始まった。 込んだ。超伝導フォーバー。 三年前、世界を段金の弱化差さ 北海教授の属する田中昭二

で、出し、 超伝導物質のプロジェクトだっち、世界でもっとも大規模な高温 た。しかし、彼らの願いとは察唆 文語省から二億円の予算を引き 八四年から三年計画で行

194

ないか。三人のクビを揃えて持つ 「これといった展集はでなかった」 「お倒たらは嘘をいってものじゃ 文部省省设施会社、

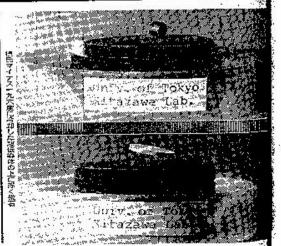
った。とのと今田中教授は、北洋ロジェクトから身を引くことにな 教授や学生だちに向けて た。精局三人は、資圧をとってプ Ł いわんばかりの到着であっ

はしい」 らないのか、理民を明らかにして、関任導が起きる温度)が上が れにへるたれないで、なぜ暗界器 「自分だちは去るが、一治だちはと と激励した。

科学の世界に二番はない

のテー **頻密所のミューラー、** た岩い平角生の実験からだ。平角 的発見が田中研究室から出たので る簡単に、高温提長等物質の世界 ある。それも北洋教徒らが指導し さと名がその約一カ月後、いと マ化、チューリヒの丁BM ベトノルツ 果もはっ合り出ていますので間違

「科医療物質です。マイスナー第った。高木英森助手からだ。 たいた北漢教授に一道の間語が入 関する語文を進んだのである。 両勝士が発改していた、過伝導に 小一月十三日夜 京都のポテル



した種類は、まず変更所で数十万かったとえば現在、整電所で起るす物質が発見されたらどうなる 代の高地田に上げ、家庭の近くの もし、高い遺跡でも別伝導を示 子として

電柱のトランスで登場化下げて使

たん電流を選すとスイッチを切っ ても、総は永久に電流が流れてい るからになるから、

導

並がないから、発度所から家庭家 る。この間の設備はすべてコンパ で回じて密想すればよいたとにな また、閉じた鉱伝導同路にいっ

電力の配置が

できる。 なくなるので、認識化できる。 実現する。 りはるかに高速、高性能の、 をつくれば、大規模集員回路がつ くれる。現在のコンピューター も超大物量化あるいは超小型比が ならに、 組伝導の影子で、トランツスタ

市場」といわれるゆえんだ。 「新義繁革命」とから十兆円の統 三年前、東大が発見した高祖智 ランタン・バリウム

125

THE PATH OF NO RESISTANCE

Dec. 1986

On Friday afternoon, December 5, while snow was falling over Boston, Kitazawa told the thirty or forty scientists at the MRS meeting who were interested in superconductivity the latest news from Tokyo. He spoke slowly in strongly accented English. But the pictures, not the words, did the convincing: smudged transparencies of data only hours old. A line traced the vagaries of electrical resistance as the temperature dropped: a gentle, downhill slope until somewhere around 30 K, the tropics of lowtemperature physics, where it fell abruptly to zero, as sharply as the edge of a knife. And as the scientists made their way through the snow to Logan Airport, and flew back to their labs all around the world, they began plotting their campaigns. Their old research, which had once so absorbed them, would be put aside. Funds would have to be diverted. It was a whole new ball game.

1987
Books published for non-academic community

Cover story: 本のカバーの 宣伝文

"The path of no Resistance" H. Schechter Simon & Shuster

—from The Path of No Resistance

Interview with Koichi Kitazawa

Koichi Kitazawa is a Professor in the Department of Industrial Chemistry at the University of Tokyo. He earned his Ph.D. at Massachusetts Institute of Technology. At the November 1986 MRS meeting, Professor Kitazawa's announcement that he and his colleagues had confirmed the Bednorz and Müller results sparked worldwide excitement in the research community. In this wide-ranging interview, Professor Kitazawa discusses current issues and the history of oxide superconductor research in Japan.

How did you happen to study at MIT?

I began my Ph.D. studies in the Department of Industrial Chemistry at Tokyo University. I was studying zinc oxide to learn how zinc and oxygen ions move due to diffusion at high temperatures. My results were different from a theory proposed by Dr. Robert Coble at GE Schenectady laboratory, so I sent him a letter with my data. But Dr. Coble had moved to MIT, so my letter went to MIT.

Dr. Coble was on sabbatical year, sailing to Tahiti on his boat, so my letter didn't reach him. The department head, Professor Kingery, sent me an application form for the graduate school at MIT. But the application said foreigners must take a language examination and also the Graduate Record Examination, and the time for those had already passed. Besides, I was in my second year of Ph.D. studies, so I thought, "This is impossible." But anyway, I filled out the form and sent it to MIT.

Then I received a letter inviting me to enter the graduate school. I was in trouble, because in 1969 one dollar was 360 yen — right now it's 120 yen. So I wrote again and said I was sorry, but I could not attend MIT because it would be impossible to support myself and my wife as a student in the United States.

Then I got a letter saying I had been granted a scholarship. So I asked my boss, Professor Mukaibo, "What should I do?" And he said, "Why not go study at MIT?"



So I went to MIT in 1969 and studied with Professor Coble in the ceramics division of the Department of Materials Science. I finished my Ph.D. after two and a half years and stayed one more year as postdoc. I wrote my thesis on the electrical and diffusional properties of aluminum oxide and zirconium oxide at high temperatures.

I was very happy as a student there. Getting to know people in this country was the most valuable part of the experience. And I had the opportunity to look at Japan from outside — that was also important.

Who were your friends, and why were they more important than your studies?

I had already spent three and a half years as a graduate student at Tokyo University, one and a half of those as a Ph.D. student. I had already learned most of what a Ph.D. student normally learns; the rest is just to finish his thesis. So at MIT I learned those things again.

Professor Kent Bowen of MIT was also a Ph.D. student then, one year senior to me. It was during the Vietnam War; there were many hippies, and students didn't work very hard. But Kent is an oldfashioned American - in his mind there is no success and no future without sweat. When I call him from Japan at 5:30 in the morning, he's already in the office. We can judge how he would think; he is honest, and he always attacks problems from the front. So he is someone I can ask to hold the life line for me. People like Kent are necessary in order to move things toward the correct direction.

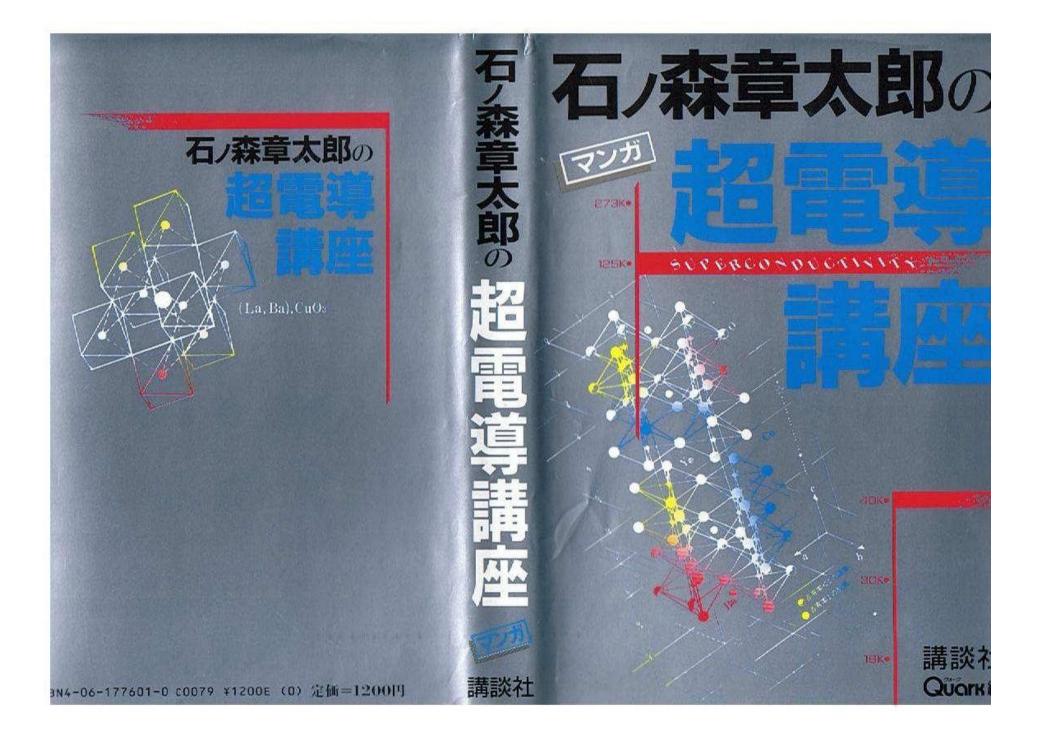
Professor Coble, my supervisor, was also an interesting person, and my wife and I loved him very much. Whenever he went somewhere he took us with him — especially when he went skiing, because he didn't like to stay in his cottage alone. In fact, I learned later that Professor Coble had arranged for my admission to MIT because I mentioned on the application that I had worked as a ski instructor! He influenced us very deeply because of his humanity and his sense of humor.

What did you learn by looking at Japan from the outside?

Most Japanese people think they do not have to express themselves very much to be understood. But that's not true. Japanese are often misunderstood by foreigners. Even if a Japanese person has good will,



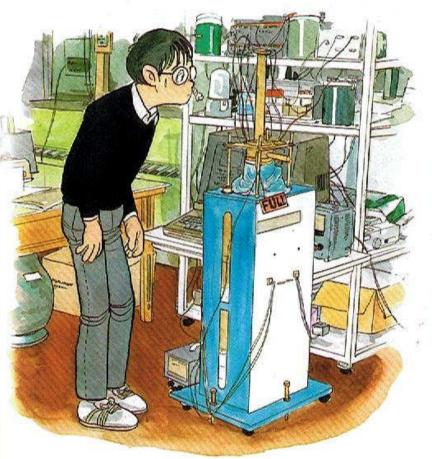
Two students who helped confirm the existence of high— T_c superconductivity: Shoichi Kanazawa, who studied LaBaCuO for his undergraduate thesis, and Hiroshi Eisaki, who first measured zero resistivity above 23K







序章 **東京発の大フィーバー**



研究者たちはヒーローになった。しかし・・・技術は時間がかかる。



Cartoon books published

By Ishinomori Shoutarou "Choudendo Kouza" "SC lessons" Kodansha Publ. Co. (1987)

And 20 years have passed. Two Problems to be solved

内外美術書、画集、写真集 その他本も取扱い

源春堂書店 東京四03(291)5082

幼稚園学級定員見直し(社会面)

3面 スポーツ Special

7面 写会学88

8・9面 ニューライフ

「ニューオフィス」の時代



1988.5.27

THE YOMIURI EVENING EDITIO

初言及

宏一

(きたざわ・こういち) 東大工学部教授

社会党中央執行委員会で対応を協 議する土井委員長為と山口書記長

な

略歴 昭和18年、長野県飯山 市生まれ、45歳。41年、東大理学 部卒。マサチューセッツ工科大 昭学後、東大工学部助手。講師、 助教授を経て、62年から教授。

高温超伝導はなぜ起きる?

現在も論争続く 20年経っても・・。むずかしい! 理論家と実験家の努力 クーパー対の存在は確認 解明できたら、ノーベル賞!

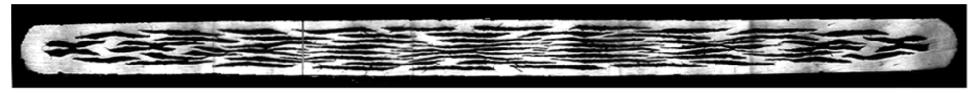
高温超伝導の課題一実用化への道

大電流が流しにくかった 材料技術の進展:技術者たちは頑張ってきた!

- →日本の活躍→高電流密度超伝導線の進展
- →超伝導ケーブルの実地試験

BSCCO 2223 ビスマス系線材

銀シーステープ状線材、ファインマルチ線材 繊維状酸化物超伝導線が銀に埋め込まれる



特許

断面図

3 x 0.2 mm

臨界電流

Ic: 250A に達した

(銅線なら10A程度)

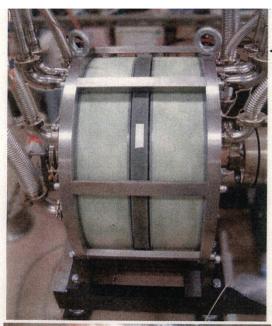
Picture from





超伝導モーター・スクリュー推進船

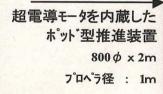
(IHI.住友電工·福井大学)

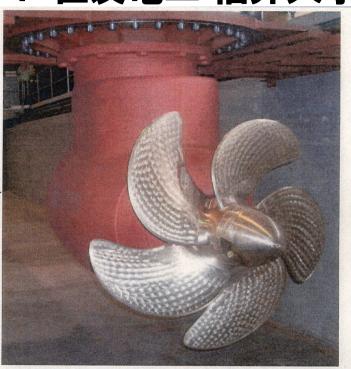


高温超電導モータ 600 φ × 0.6m

定格12.5kW(過負荷62.5kW) ×100RPM

(液体窒素温度:66K)

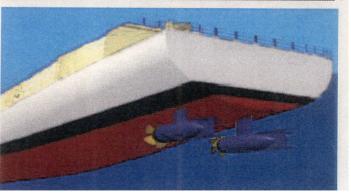






水槽での実証試験

超電導モータを実装した船舶イメージ図





高温超伝導ケーブルの構造(住友電工)

Albany Cable Site



070501フランスパリ南郊外オルセー

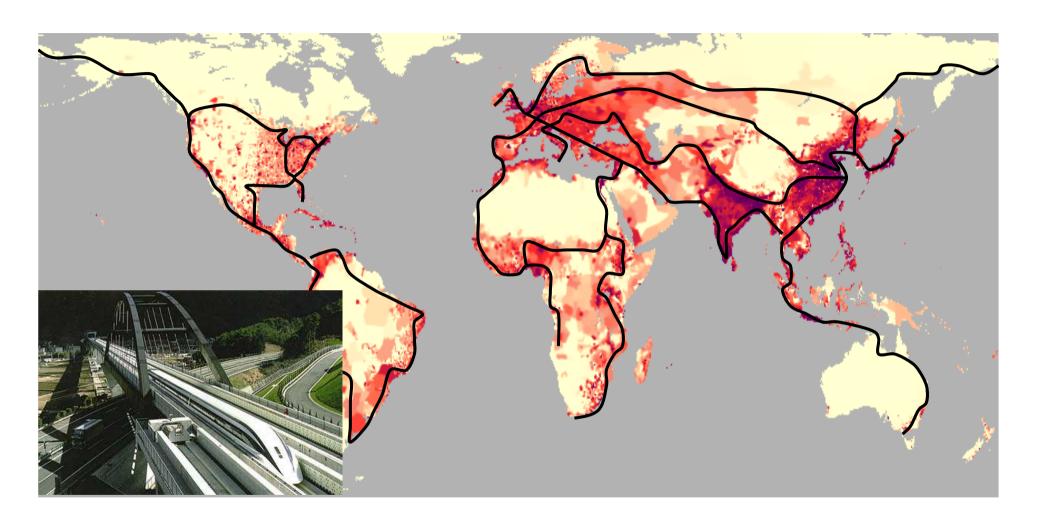


美しい空は どこへ





IMAGINARY MAGLEV PATHS



and Population Density Distribution

K.Kitazawa: Moscow Int. Conf. 2000, Moscow State Univ.

超伝導の活躍 "きみたちが活躍するころ"

いろんなことを体験 まず、大学にいこう 海外も体験 2-3年が理想 学生時代でなくてもいける お金が無くてもいける 大学院、ポスドク (RA制度)

研究者・技術者 好きなことを毎日できる職業

科学(サイエンス)とは

- まず自然現象をきちんと観察できること
- より深い観察(見過ごし易い!)
- それを記述できること
- 法則を作る
- 説明できる理由(メカニズム)を考える
- すべての観察を説明できるか?
- 実験
- 推理小説を書きながら読む楽しみ

実験: 超伝導体の不思議 磁石と超伝導体はどこが違う?

